

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

行動する環境アドバイザーの会報

グリーンニュース 第51号



ギンリョウソウ（銀竜草）は落ち葉などの腐食に生育し、その姿からユウレイタケ（幽霊茸）と呼ばれますがキノコではなく植物です。しかし葉緑素を持たないので菌類との共生で栄養を得ると言われています。

撮影 武尊山麓 提供 田中 和夫氏

- P1 表紙
- P2 アドバイザー登録状況、8期代表のお礼の言葉
- P3 第9期 代表、副代表の挨拶
- P4 副代表の挨拶、連絡協議会部会長の挨拶
- P5 連絡協議会部会長の挨拶
- P6 部会長の挨拶、広報部会の紹介
- P7 広報部会取材記事(高山村植林の下草刈り)
- P8 要注意外来生物(オオブタクサ)

発行年月日 平成24年 7月25日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹

前年度(第8期)の県環境アドバイザーは327名の登録をして頂いておりました。第9期(登録期間:平成24年4月1日～平成27年3月31日)への更新登録者は203名でした、今期の新規登録者を含め平成24年7月11日現在241名です。 前期同様、各地で活躍されています。



※ サポセンブログ <http://saposen.kazelog.jp/> からグリーンニュースがダウンロードできます。

お礼とお願い

・・点、線、面、そして立体的な活動を・・

今般、世代交替として、熱意のある立派な役員の方々にバトンタッチをすることが出来ました。“良かった”と素直に思っています。ここに、環境アドバイザー皆様の永年にわたるご協力、お力添えに対し、お礼申し上げます。環境問題のテーマは、多岐にわたります。今後とも皆様方のお力で立派な環境アドバイザーの活動が展開されますよう祈念致しまして、お礼の言葉と致します。

さて、お願いがあります。それは点から線、そして面、立体への想いを込めて活動していただきたい、ということです。

環境アドバイザーに登録された方々は、お一人ずつ何らかの“思い”をお持ちだと思います。それは点です。それを専門部会とか、地域の集まりの機会等を通して話し合い、相互学習、相互啓発を増やしていけば、立派な線、面の活動となります。更にその話し合い、活動が行政、県や環境森林事務所等に結び付いていけば、立体となり、厚みのある、幅広い活動となります。

環境アドバイザーの皆さんは、楽しみながら、各種の提言を行うとともに、県事業への協力等を通して、更に新しい仕組み、世界を学んで行ってください。

以上お願いです。



第8期 代表 鈴木克彬

第9期 群馬県環境アドバイザー役員挨拶

代表 須永 徹

この度、第9期の群馬県環境アドバイザー連絡協議会(代表)会長としてご推薦を頂きました須永 徹です。

環境アドバイザーとしては、ごみ部会長として3年間活動して参りましたが、これからは環境アドバイザー全体の活動について、より一層地域ごとに、県民局などと連携しながら協議会の活性化や部会の活動に対して、副会長や幹事の皆様と一体となって微力ながら務めさせていただく所存です。

そして群馬県の環境施策について、環境アドバイザーとして何をどのような形で支援・協働していったらよいか、そのためには環境アドバイザー個人や連絡協議会がどのようにあるべきかなどを考えて参りたいと思います。

とは言え、私自身はまだまだアドバイザー諸氏の中では経験も浅く未熟ですので、皆様からのご指導・ご鞭撻のほどを前任の鈴木代表以上に宜しくお願い申し上げます。



副代表に推薦されて

副代表 原田 邦昭

環境に関心を持っているのは古里が田舎だからかも知れませんが、10年前に環境アドバイザー・高崎地区会に所属していましたが、何年間かはブランクがあり、活動をしていませんでした。また地区会に戻り、環境アドバイザーの自然環境部会、広報部会に所属し、この4年間は広報部会長となり、グリーンニュースを作成するなどして来ました。今回皆さまの推挙により副代表となりました。これからの任期3年間は各地域の活性化や県、市、地区の活動の連携を図り、縦横の繋がりを深めて行ければと思っています。微力ではございますが、私なりの努力をして行きたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



副代表 宮崎 亮二

万事前向きで考えましょう

前期は、自然環境部会で高山村での森林保全活動等を行って参りました。過日の総会にて副代表に任命されました。副代表のお仕事は多面的に少々時間をかけてより良い環境アドバイザー連絡協議会のお手伝いを行って参る所存でございます。どたでも、お気軽に声をかけて下さい。



“行動する環境アドバイザー”を合言葉に



過日の総会で副代表に再任されました、吉澤です。

第8期の連絡協議会の副代表として3年間務めてまいりましたが、皆さんのお役にたつことが出来ず、この場をお借りしてお詫び致します。

第9期は、須永新代表のもと、こころ新たに、微力ながら取組んで行きたいと思います。専門部会では、今までの経験を活かし、ごみ部会と温暖化・エネルギー部会の活動に関わらせていただきますのでどうぞ、よろしくお願い致します。

昨年の東日本大震災・原発事故とその後の電力不足は、私たちの価値観、ライフスタイルを一変させました。私たち環境アドバイザーは、地球環境保全・地球温暖化防止のため、ライフスタイルの見直しを訴え続けてきましたが、それが、震災・原発事故によって待ったなしの課題として突きつけられたのです。3.11以降、日本人のこころの奥にあった「自然への畏敬の念、人のつながりやものを大切に作る気持ち」も呼び覚まされました。

こうした状況下、私たちはどのような社会をライフスタイルを目指すのか、そのためのエネルギーをどうやって得るのか、地球環境保全・温暖化防止の観点と合わせて考え、行動していくことが求められていると思います。

地球環境保全・温暖化防止に強い思いを持った群馬県環境アドバイザー236人（H24.6.26現在）全員が、“行動する環境アドバイザー”を合言葉に英知と行動力を結集して、自然と共生し、未来に引き継ぐことの出来る持続可能な社会を目指して取り組みましょう。

まずは、身近な、「生活ごみの減量」、「家庭の節電・省エネ」を自ら実行し、そこから周りの人たちに実行を働きかける、こうした地道な行動を継続することが大事だと思います。

考え、行動しましょう！

第9期 環境アドバイザー連絡協議会 部会長挨拶

広報部会長 田中 和夫

今回広報部会の部会長を務めることになりました。

原田部会長にはもう一期務めていただき、その後引き継ぐつもりでいましたが、今回協議会の副代表就任という事で急遽要請があり引き受けました。

顔が広くまた行動力のある前部会長と違って実力には自信がありませんが、今回新たに就任された副部会長、書記の方々および広報部会員の皆様と一緒に色々と工夫を凝らして機関誌「グリーンニュース」を一層魅力のある物にしていきたいと思っています。



今まで作ってきた我々が言うのも変ですが、ややマンネリ化しており、「読もうか！」という魅力に欠けていたかな？という反省もあります。

娯楽記事を載せる必要はないと思いますが、より有意義、かつ読み応えのある紙面とすべく、記事の集め方にも新たな視点から独自取材なども検討していきたいと思っています。

またホームページの問題も中途半端な状態となっていますので、ネット時代の要請に応えるべく今後の重要課題としたいと思います。いずれにしてもアドバイザーの皆様のご協力が必須ですのでより一層のご協力をお願い致します。

地球環境の変化が急劇に進んでいることが、私たちの暮らしに大きく影響を及ぼすようになってきました。

主な原因とされている地球規模での気温上昇…「温暖化」が言われてからかなり時が立っています。

にもかかわらず地球の気温は過去 2000 年で最高のレベルになっています。

「私たちはどうすればいいのでしょうか!？」

もう 1 度真剣に考えなくてはならない時が迫っています、いいえ、もうすでにその段階に突入しています。温暖化・エネルギー一部会としてもまず「身近に取り組んでいける事」を皆さんと共に考え、行動に繋げていきましょう。

「地球環境の保護・保全」という言葉があります。

私たちは地球環境を守っていかねばなりません。

その前によく考えれば私たちこそ地球環境に保護してもらっているのを忘れてはなりません。

当たり前と思いがちな《飲める水、呼吸可能な空気、酸素を生み出す植物、太陽光による温度、植物を育む大地》

まずこれらが健全な状態でなければ日常生活はおくることができないのです。

そういう意味では「保護・保全」というよりは「地球環境との共生」という方が正しいかもしれません。

環境アドバイザーとして、または部会として少しでも地球環境との共生に役立つよう行動していきたいと思えます。

皆さんよろしくお願いします。



ごみ問題を考える

先のごみ部会において、部会長が総会で連絡協議会の代表に選出されたため、後任をお引き受けいたしました。経験も能力もありませんが、ごみ問題に真摯に向かい合うことと群馬県環境アドバイザーの皆様の支援だけを頼りに、何とか役目を全うできればと考えております。



ごみ処理施設見学会の実施、ごみ問題事例報告会の開催、環境にやさしい買い物

スタイルの普及など当面は今までの活動を継

承し、中心にして活動してゆきたいと思えます。どうぞ宜しくお願いいたします。



— 地区活動は盛んなのですが —

前略、最近の自然環境部会定例会は、今一つ参加人数が少ないのが残念です。しかし、地域活動が活発で成果も上がっております。

その一例をあげますと、桐生・みどり地区です。前期の部員が10名位で推移して参りましたが、今期に入り急に増加して現在24名になりました、地区の幹事さんに理由を聞きましたら、「地域の皆さんと共に楽しく活動をすればするほど仲間が増えて、楽しさも増えます」とのお話でした。

元気を出して汗をかけば評価もされ、認められるのだと改めて感じました。部会員の仲間も全県下に66名になりました、部会開催日もウイークデーにしたり、土日にしたりと工夫はしていますが仲々全員揃う迄には未だまだです。良い方法がありましたらご指導下さい。

この夏は真夏日が多く嚴重注意です。

草々



連絡協議会 部会活動ニュース

広報部会の紹介

～私たちが、グリーンニュースを発行しています。～



第51号グリーンニュースの編集会議にて

第9期広報部員は23名になりました。環境アドバイザー相互の情報交換の場を提供するため、グリーンニュースの発行に努めています。

みなさまの活発なご意見やご投稿をおまちしております。ご協力お願いいたします。

高山村植林の下草刈り

平成24年5月27日(日)自然部会主催の上記の取材に行き合同参加してきました。午前9:00に高山村のパス大学の道を挟んで西側の高山村本宿殖産組合管理地の植林地に集合して、まず、宮崎さんの日程、酒井さんの振り払い機の使用方法についての話しのあと、それぞれに下草刈りと枝の剪定をしました。参加者は彦部雪夫(桐生)、鹿沼 薫(みどり市)、鈴木 久(みどり市)、佐藤彰男(安中)、酒井千富(前橋)、宮崎亮二(前橋)、飯塚清苑(太田市)、原田邦昭(高崎)そして地元の殖産組合の平形さん、倉田さん、稲川さんの計11名が参加しました。

当日は天候も良く、晴れて直射日光に当たると、暑くて振り払い機で下草を刈っていると汗だくに成る程でした。

栗、桜、クヌギ、などの30センチ程度の植栽をしたが、今では2メートル程度にもなり木陰を作ってくれ休憩をする時は涼しい場所を提供してくれました。近くに子持高原牧場、群馬県天文台、プラネットわらび荘、北毛青少年自然の家、遠くには谷川岳、白根山の雪を頂いた山々も見えて心の洗濯も出来、充実した半日でした。

(広報部会 原田邦昭 記)



(24, 5, 27、高山村現地にて)

トピックス

オオブタクサ(要注意外来生物)に対して

自然環境部会は現在、高山村にて里山再生プロジェクトを行っております。里山整備作業としてクズの侵略から植林した苗木を守るために下草刈りをおこなっています。

ここ1, 2年、ようやく、クズの勢いが弱まってきたところに、新たな侵略者が現れました、それが北米原産の一年草オオブタクサであります。

オオブタクサは、日本における花粉症原因植物の第3位(第1位スギ、第2位カモガヤ)と悪名が高い害草で、茎の高さは1mから3mに達し河川敷や荒地で大群落をつくります。葉のかたちが桑の葉に似ていることからクワモドキとも呼ばれています。



オオブタクサの種子は6mm程と大型で落下すると、土中でシードバンクを作り発芽のタイミングを待っています(20年もの間、休眠することもある)。種子が大型のため、動物や風による分散の仕組みを持ちませんので、洪水で運ばれるか河川工事で土が動かされたり、工事車両のタイヤに挟まったりして分布が拡大していきます。最近では、工事車両などによる拡散のため、山間部の荒地(土捨て場など)でも見かけるようになりました。高山村の里山も土捨て場に植林した場所であり、おそらく搬入された土砂に種子が混入していたものと思われます。

オオブタクサの大型の種子は、他種に先駆けて早春に発芽し急成長するため、一年草にもかかわらず多年草との競争に太刀打ちできます。オオブタクサが密生している場所では他の植物は殆ど育成できません。したがって、発芽直後に実生を引き抜くことが効果的な除去方法といわれていますが、この方法も長期間行わないと効果がありません。また、夏にある程度大きく育ってから刈り取っても、残された基部から出芽、開花、結実に至るため効果は低いようです。

オオブタクサのような外来種は、ともかく分布拡大させないことが大切です。一度、侵入してしまうと駆除することは容易でなく、長い時間と経費がかかります。オオブタクサのように、全国に蔓延してしまった外来種を完全に駆除するのは不可能ですが、河川工事の土の搬出や工事車両による拡散に注意することで、少しでも分布拡大を防ぐ努力をしていくことが大切です。

自然環境部会 酒井千富

部会からの報告、連絡

部会	内容	月/日、時間	場所	担当
広報	部会、GN52号編集会議	8月22日(水)13:30-15:30	県庁16Fサロン	田中(027-325-0721)
温暖化				
自然	部会	9月15日(土)13:30-15:30	元気21(3F)	宮崎(080-5019-3820)
ごみ	部会 (第22会議室)	8月11日(土)13:30-15:00	県庁昭和庁舎	山田(090-4120-6508)

次回(52号) 平成24年10月25日発行